

1 病院の沿革

富士市立中央病院は、昭和24年、日本医療団富士地方病院を買収し、町立富士中央病院として診療科目5科（内科、外科、産婦人科、小児科、眼科）、使用許可病床数99床（一般53床、結核46床）で富士市本市場441番地の1に設立されました。

その後、翌25年には耳鼻咽喉科を、昭和30年には皮膚科を新設、さらに昭和37年には気管食道科、放射線科の2科を新設し、計9科となるとともに、医療法による「総合病院」として認可されました。

さらに、昭和39年から当地区最初の子宮がん集団検診を開始し、昭和42年には成人病検診車による胃がん検診を開始しました。

昭和50年代に入ると医療技術の進歩に伴い、昭和51年に脳神経外科、52年に人工透析室の開設のほかコンピューターX線断層撮影装置等の最新鋭医療機器を導入し、設備の充実を図ってきました。

一方、この間、病棟の増改築を重ね、昭和54年には整形外科を新設し、診療科目11科、使用許可病床数346床（一般306床、伝染40床）を数えるまでになりました。

しかし、病棟の分散的配置による医療効率の低下、病床数の絶対的不足、地震等の災害における安全性の懸念等から、昭和54年9月増改築基本構想案を作成し、昭和56年5月病院の全面移転新築を決定し、昭和57年10月起工。昭和59年6月に完成し、診療科目18科、使用許可病床数520床（一般488床、結核12床、伝染20床）の規模で同年8月28日から開設しました。また、同時に市内唯一の24時間2次救急の受け入れを開始しました。

その後、昭和61年8月に精神神経科を新設し、診療科目19科となり、平成3年には臨床研修指定病院の指定を受けました。

一方、昭和63年7月には静岡県地域医療計画に基づき増床（一般92床）の許可を受け、平成2年10月新館建設に着手、平成3年11月に完成し、引き続き同年12月に本館改修に着手、平成5年2月の完成に伴い結核病床を12床から10床に変更し、平成6年4月に使用許可病床数610床（一般580床、結核10床、伝染20床）となりました。

さらに、平成5年4月には内科より循環器内科を分離し、心臓血管外科医3名を加えて、計7名による循環器科として診療を開始し、平成9年2月には心臓血管外科を新設し、診療科目20科となりました。

平成11年4月から第二種感染症指定医療機関の指定を受け、従来の伝染20床から感染症6床に切り替わり、使用許可病床数は596床となりました。その後、感染症病棟の有効利用を目的に改修を行い、平成15年3月、一般病床の個室の増設などを行いました。

平成15年度には4月から神経内科の常設、5月には歯科口腔外科を新設し、診療科目22科となりました。

平成16年度には、従来あった2台のCT装置を32スライスMDCT装置に、また県内3台目となるCT付きガンマカメラを導入しました。

平成18年12月には、医師不足等による入院患者数の減少が続いていたことから、3C病棟（56床）、本館7B病棟（55床）を休止し、平成19年の9月には本館7B病棟（55床）を再開し、別館2C病棟（56床）を休止したため、稼働病床は484床となりました。

平成21年5月には電子カルテシステムを導入しました。診療情報の電子化により診療経過が瞬時に検索でき、迅速で的確な診断に基づく診療が可能となりました。また、医療スタッフが診療情報を共有できるようになり、チーム医療の推進が図られています。

平成24年1月には、2台のCT装置のうち1台を撮影時間が短く、放射線被爆を低減できる256スライスMDCT装置に更新しました。

平成23年度から平成24年度にかけて周産期医療体制の充実と療養環境の整備を図るため、別館病棟と本館の一部の改修工事を行いました。

改修工事に備え、平成24年1月に別館2C病棟の病床（56床）を返還し、使用許可病床数は540床（一般病床524床、結核10床、感染6床）となりました。別館2C病棟に本館2階の産婦人科外来と別館1階の通院治療室を移設拡充し、併せて外科、泌尿器科、婦人科が女性特有の疾患を診療する女性専用の外来（女性外来）を新たに設置し、平成24年11月から産婦人科外来とともに診療を開始しました。

本館4階産婦人科病棟は、産科専用病棟として新生児室を拡充し、療養環境改善のための病室の改修により6床減少し、また、小児科病棟は、新生児治療室をNICU施設基準に準拠するために、病室を改修して10床減少しました。

また、平成25年4月から消化器内科及び神経内科の医師常勤による入院診療再開に伴い、入院患者の増加に対応するため、平成18年12月から休止していた別館3C病棟を再開することとなりました。病棟再開に伴い、平成25年1月から老朽化した設備の改修や、療養環境の改善のために、6人室（2室）を4人室（2室）に改修したことにより、4床減少し、併せて各病棟の診療科配置を見直しました。一連の改修工事が完了した平成25年3月末に、使用許可病床数は520床（一般病床504床、結核10床、感染6床）となり、平成18年度からの休止病棟の解消が図られました。

平成25年6月から、薬剤師を病棟に配置し、入院患者への服薬指導や、病棟での薬剤管理を行うなど、入院診療体制の機能強化を図る必要があることから、院外処方に移行しました。

平成26年6月には高画質な撮影と放射線量の低減が可能な最新型血管撮影装置ArtisQ BA twin（ドイツ・シーメンス社製）を導入しました。同年7月には新生児特定集中治療室管理料の承認を受けました。

また、高度で専門的ながん診療体制の充実を図るため、平成26年7月に緩和ケア外来を新設し、がん患者サロン及び患者図書コーナーを設置しました。平成27年1月にはセカンドオピニオン外来を開始しました。

その他、臨床研修医のより良い研修環境を確保するため、平成27年1月に臨床研修センターを設置しました。

昭和 59年 7月	総合病院「富士市立中央病院」の名称使用について県知事承認を受ける。
8月	本市場より移転し、高島町に於いて新病院を開設する。使用許可病床数 520 床、11 科から 18 科に増科し、8 病棟 405 床について 3 基準（寝具、給食、看護）の承認を受ける。
60年 3月	人工透析室を増床拡大、CT 導入、また、（財）放射線安全技術センターによる施設検査に合格する。 糖尿病教室が発足する。
60年 5月	12 病棟 496 床について 3 基準（寝具、給食、看護）の承認を受ける。
6月	運動療法施設基準を受ける、また、ICU・CCU 開設する。
8月	科学技術庁より国際規制物資使用許可を受ける。
10月	母科学級が発足する。
61年 2月	特定集中治療室管理承認を受ける（4床）。
61年 9月	精神神経科外来（医師2名）の診療を開始する。
63年 5月	第2駐車場（52台）稼動する。
7月	4A病棟が特3類基準看護の承認（県下第1号）を受ける。
平成 元年 2月	きさらぎ会（低肺機能障害患者会）が発足する。

平成 元年 4月	磁気共鳴断層撮影装置 (MRI) を導入する。
平成 3年 4月 9月 12月	厚生省より臨床研修指定病院の指定を受ける。 救急医療功労賞 (県知事表彰) を受賞する。 別館 (RC 3階) 完成により 2C 病棟 (56 床) の使用許可を受け、使用許可病床数 536 床となる。1階にリハビリ部門を移転拡大整備し、地域保健科・病診連携室 (現 医事課 地域連携室) を新設する。 本館に内視鏡室・超音波診断室を整備する。
4年 6月 11月	3B 病棟、救急観察病室、結核病棟改修により、使用許可病床数 554 床となる。 4月に作業療法士 1 名を採用し、作業療法施設基準の承認を受ける。 特 3 類基準看護の承認が 3 病棟 134 床に拡大する。 旧 3A 病棟に ICU・CCU、手術室を拡大整備する。
5年 4月 6月 10月	循環器科 (内科系医師 4 名、心臓血管外科医師 3 名) の診療を開始する。 自治大臣表彰を受賞する。 第 2、4 土曜日を外来休診日とする。 特 3 類基準看護の承認が 11 病棟 512 床に拡大する。 第 2 駐車場を 92 台に増設する。
6年 4月 7月 10月 11月	3C 病棟 (56 床) を開設し、使用許可病床数 610 床となる。 毎週土曜日を外来休診日とする。 県集団給食協会優良施設として県知事表彰を受賞する。 患者家族用駐車場 (55 台) を整備する。 13 棟 578 床が新看護 (一般 2.5 : 1A 結核 5 : 1A) の承認を受ける。 体外衝撃波結石破砕装置を設置する。
7年 8月	夜間勤務等看護加算の承認を受ける。
8年 7月 11月 9年 2月	トータルオーダーリングシステムを稼働する。 MRI を更新する。 心臓血管外科を新設し、診療科 20 科となる。 放射線治療装置 (ライナック) を更新する。 救急医療功労賞 (厚生大臣表彰) を受賞する。
10年 4月 8月 10月 12月	患者給食業務を業者委託とする。 新看護 (一般 2 : 1A 結核 5 : 1A) に更新する。 病院医療機能評価機構より認定を受ける (一般病院種別 B)。 優良集団給食施設として厚生大臣表彰を受ける。 第 3 駐車場 (160 台) 稼働する。
11年 4月 7月 11月	第二種感染症指定医療機関の指定を受け (6 床)、使用許可病床数 596 床となる。 外来患者用駐車場を無人化し、24 時間稼働開始する。 6A 病棟に無菌治療室を設置する。
12年 4月 8月	一般病棟入院基本料 1、結核病棟入院基本料 1 の承認を受ける。 紹介患者加算 4、紹介外来加算、急性期病院加算の承認を受ける。
14年 1月	第 2 次トータルオーダーリングシステムを稼働する。
14年 4月 15年 3月	6A 病棟に無菌治療室を増設する。 感染症病棟を改修、併せて一般病床個室を設置する。
15年 4月 5月 16年 2月	神経内科外来 (医師 2 名) を常設として開始する。 歯科口腔外科 (歯科医師 2 名) を新設し、診療科 22 科となる。 MRI を増設し、2 台体制となる。 病院機能評価 Ver. 4.0 の認定を受ける。
17年 2月 3月	CT 装置を 32 スライス MDCT 装置に更新する。 CT 付きガンマカメラを導入する。

17年 9月	本館雑排水管改修工事を行う。(～平成18年10月末迄)
平成18年 4月	一般病棟入院基本料10対1入院基本料の承認を受ける。 結核病棟入院基本料10対1入院基本料の承認を受ける。
7月	小児入院医療管理料2の承認を受ける。
12月	2病棟(3C、7B)を休止し、稼働病床数485床となる。
19年 1月	ハイケアユニット入院医療管理料の承認を受ける。
3月	小児入院医療管理料1の承認を受ける。
19年 9月	7B病棟(55床)を再開し、2C病棟(56床)を休止する。 稼働病床数484床となる。
20年 7月	病院広報誌「病院だより」創刊し、市内全戸配布する。
21年 2月	病院機能評価Ver.5.0の認定を受ける。
21年 5月	電子カルテシステムを導入する。
7月	診断群分類包括評価(DPC)対象病院となる。
22年 3月	6A病棟に無菌治療室を増設する。
22年 4月	診療情報管理士を採用する。
6月	一般病棟入院基本料の7対1入院基本料の承認を受ける。
23年 3月	第1回富士市立中央病院あり方懇話会を開催する。(最終回 平成24年2月実施。計4回。)
24年 1月	32スライスMDCT装置1台を256スライスMDCT装置に更新する。 2C病棟を産婦人科外来ほかに改修するため56床を返還し、使用許可病床数540床となる。
24年11月	別館2C病棟を改修し、産婦人科外来、通院治療室及び女性専用の外来(女性外来)として再開する。
25年 3月	産婦人科、小児科及び別館3C病棟の改修により、20床を返還し、使用許可病床数520床となる。 1.5テスラMRI1台を3.0テスラMRIに更新する。
25年 4月	(一社)日本臨床衛生検査技師会及び(特非)日本臨床検査標準協議会より、精度保証施設認定の認証を受ける。
6月	院外処方体制に移行する。
7月	日本輸血・細胞治療学会より、日本輸血・細胞治療学会I&Aの認証を受ける。
10月	放射線治療装置(リニアック)を更新する。
12月	病院機能評価機能種別版評価項目3rdG:Ver1.0一般病院2の認定を受ける。
26年 4月	東日本大震災の被災者支援活動等に対し、厚生労働大臣から感謝状を受ける。
6月	最新型血管撮影装置ArtisQ BA twin(ドイツ・シーメンス社製)を導入する。
7月	新生児特定集中治療室管理料の承認を受ける。 緩和ケア外来を新設し、がん患者サロン及び患者図書コーナーを設置する。
27年 1月	セカンドオピニオン外来を開始する。 臨床研修センターを設置する。

富士市立中央病院歴代院長

氏名	診療科	就任年月	退任年月
多々良 満寿雄	産婦人科	昭和24年10月	昭和54年3月
荻原 正雄	呼吸器内科	昭和54年4月	平成7年3月
結城 研司	脳神経外科	平成7年4月	平成18年3月
山田 治男	代謝一般内科	平成18年4月	平成22年2月
小野寺 昭一	泌尿器科	平成22年7月	就任中